

美術科授業案

日時 令和元年5月22日(水)
生徒 1年A組 男子17名 女子16名 計33名
授業場 美術室
授業者 更科結希

1. 題材名「本物はどっち？」表現(1)ア, (2)ア

2. 題材の目標

自分の身近にある対象物を観察し、形態や色彩の特徴を捉えて、創造的に表すことができるようにする。また、仲間の作品のよさについて、造形的な視点や特徴の表し方に着目して鑑賞することができるようにする。

3. 単元観・生徒観・指導観

美術科において、感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞するなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深めることに更なる充実が求められている。今回は、表現や鑑賞を〔共通事項〕との関連を図り、形や色について実感を伴いながら理解できるようにしたい。

学習指導要領において、対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに構想を練ることとしている。こうした思考・判断・表現等を、生徒の感性や想像力に実感的に働きかけるためには、鑑賞と表現の相互の関連は不可欠であると考えられる。

本題材は、中学1年が宿泊研修で厚岸を訪れた際に採取してきた石(自宅周辺も含む)を対象物として扱う。生徒が選んだ石を対象物として観察していく中で、造形的な視点で対象物を捉え、素材や道具を工夫しながら表現していけるよう指導していく一つ一つ異なる形の石を立体物として捉え、前時で学習した色彩の学習を生かしながら、本物に近づけるといった側面から、表したい特徴を明確にして表していく過程での学びを大切にしていきたい。

美術科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術との関わりについて自分としての意味や価値をつくりだすことである。

本題材においては、立体物を全体や部分などの側面から、自然物と人工物の形態や色彩の違いに気付く、対象を捉えていく見方・考え方を高めていく。こうした見方・考え方は、生徒個人が対象物から観察し表現していくだけでは気付かないことも、他者との対話の中で、他者の見方に触れることによって高められるだろうと考える。

4. 教科等横断的カリキュラム見取り表とのかかわり

コンテンツベースでは、中1の「マグマからできた岩石」や「地層をつくる岩石」との関連題材であること。コンピテンシーベースでは、問題解決力の育成に関わり、制作の過程において対象の特徴を表現するために、既知の技能や知識を用い、創造的な技能を発揮していくことが解決の方策を様々な角度から思考・判断・表現していく力の育成に繋がっていくと考える。

5. 題材を通して育むリーダーシップ・フォロアワーシップの資質・能力

本題材は、個人の問題解決を図る学習のプロセスの中で、必要となる知識や技能を習得しながら思考・判断・表現等をしていく場面でLF-shipを育むための資質・能力を目指す。本単元では、本物と同じ表現するために必要な見方と他者にアドバイスをするための見方を互いに共有することが、問題解決の鍵となる。そのため、「学び合い」を問題発見、解決の方策の場に設けること、及び「学び合い」の前後の発問や指示が子供の学習の必要感を生み出していくものとして位置づけていきたい。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 表したいイメージを大切にしながら、形や色彩などの表し方を身に付け、表現意図に応じて素材の扱いや道具の扱いを工夫しながら創造的に表現していくための技能を身につけている。	ア 主題を基に、全体や部分との関係を考え、形や色彩にこだわりを持ち、創造的な構成を工夫しようと構想を練っている。 イ 造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、主題と表現技能の選択や材料の生かし方の工夫などについて考え、見方や感じ方を広げている。	ア 対象を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出しながら、形や色彩を表すために材料や用具の特性を生かして工夫して表現しようとしている。

7. 単元（題材）計画


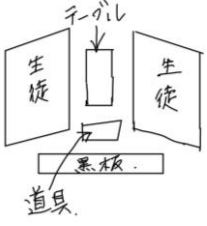


時数	○主な学習活動	評価の観点			【学び合いの過程】 手立て
		知	思	主	
1 (本時)	・対象の特徴を掴み、主題を生成する ・粘土スケッチを行い、立体物として形をつくる上での視点を共有する			ア	【全体を捉えるための部分に着目するために】 手立て ・多くの対象物の中から自分の特徴を見いだす場を設定する（課題の把握） ・他者の作品に対してアドバイスをしていくために、他者の表したい意図について共有する。（他者の課題の把握）
2	・粘土で全ての面を捉えたのち、細部を様々な道具を活用しながら表していく	ア	ア		【全体を捉えるための視点に着目するために】 【部分を捉え、その特徴を工夫して表現していくために】
3	・色彩の特徴を見つけ、絵の具の混色を工夫しながら表す。 ・他者作品から着色の仕方によって、見え方が異なることに気付き、自分の表現につなげていく	ア	イ		手立て ・対象物を多面で捉えるために、視点の位置をずらしたり、他者の見方で凹凸の角度を確認していく（解決の視点の獲得） 【全体を捉えるための部分に着目する】
4	・全体の色の特徴と部分の色の特徴に分けて、道具の工夫をしながら表す。		イ		手立て ・主題の表現のために必要な様々な方法を共有し、自分に必要なものを選択していく。（解決の視点）
5	・完成した作品を撮影する ・他者と作品の鑑賞をし、石のどのような特徴を表そうとしていたかについて造形的な視点をもとに、自分の感じたことを伝える。			ア	

8. 本時案

(1) 本時の目標

自分が選んだ対象にしかない特徴を捉え、表していく際の主題を生成する。また、立体を捉えるための視点を共有しながら、粘土スケッチで大まかな形を表し、次時への課題を見いだす。

(2) 本時の展開 (1 / 5)

<p>学習活動 児童・生徒の姿</p> <p>○教師の働きかけ・発問, △補助発問, □指示・説明 手立て</p>	<p>【評価の観点】</p> <p>◇評価の内容</p> <p>・指導上の留意点</p>
<p>1 本物に近付けるための方策を確認する。</p> <p>○この中に偽物の石はあるか。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>粘土で作る 水も必要 ハラモあったら</p> <p>同じように作る 高さ・幅・奥行き</p> <p>よく見る → 凹凸を見る</p> <p>全体的 部分的</p> <p>石を握る 自分で 他の人に見てもらおう</p> <p>取除く</p> </div> </div> <p>2 主題を生成する。</p> <p>○どうしてその石を選びましたか。自分の石の特徴はわかっていますか。</p> <p>□みんなで石をテーブルの上に並べて、その中から自分の石を見つけ出してみよう。 手立て</p> <p>○なぜ、その石が自分のものだと思いますか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・この部分が少し欠けている ・平らくて、全体的に丸味がある ・真黒に近く、形がゴツゴツとした四角形に近い <p>※他の石との違いを明確に持つこと → 形の特徴を捉えること</p> </div> <p>○特にどの部分にこだわって制作していきたいだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>□「選んだ石の○○の表現にこだわる」で制作していこう</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>・色に関わること ・形に関わること</p> </div> </div> <p>□班のメンバーに、こだわって制作していきたいポイントを話しておこう 手立て</p>	<p>・教室環境</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;">  <p>観察共有できるようにする</p> </div> <p>・気付いていた特徴を言葉にする場面</p> <p>◆学 大多数の中から対象を見付けるためには、他と比べて見る必要がある。自分の対象にのみ存在する特徴を見出していく。</p> <p>【思】</p> <p>◇自分の感じ取った石の特徴を主題として位置づけワークシートに記入している</p> <p>◆学 他者の作品を見るための視点として必要な情報を獲得する</p>
<p>3 本物と同量の粘土を取り分け、大まかな形を形成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>□手の中で感じ取れる量を、同じく取り分けて、大まかな形を形成してみよう。</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>△うまくいかないことや難しいことはどんなことだろうか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・形をよく見ることが難しい ・こっちから作ると別の面が動いてしまう ・とんがりを上手く表せない </div> </div> </div> <p>3 立体的な対象物を捉えるための視点を確認する。</p> <p>○石と粘土と現段階での違いは、どうしたら発見できるだろうか。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・正面から ・色々などところから ・真上から 見てみる ・比較して見る </div> <div> <p>△立体的なものは最低限いくつかの方向が考えられるだろうか。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>・6つの方向から考えられる</p> </div> </div> </div> <p>△色々な方向から同時には難しいのだろうか</p> <p>□左に石を置いて、右に粘土を置いて、比較し過不足を調整しよう</p> <p>□隣の人と交換して、違いを見付けてもらおう</p> <p>4 大まかな形づくりを通して考え、次回につなげたことをWSにまとめる。</p> <p>○今日の大まかな形を作る時に大切にできたことはどんなことでしたか。</p> <p>□考えたことや学んだことをWSに記入しましょう。</p>	<p>・外観を見た目で捉えるだけでなく、「量」として捉えるために、手の中の感触を利用する</p> <p>・正面×真上×横2方向×背面×底面で立体を捉えていくために、正面を決める</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;">  </div>